

大關指第二千五百二十五號

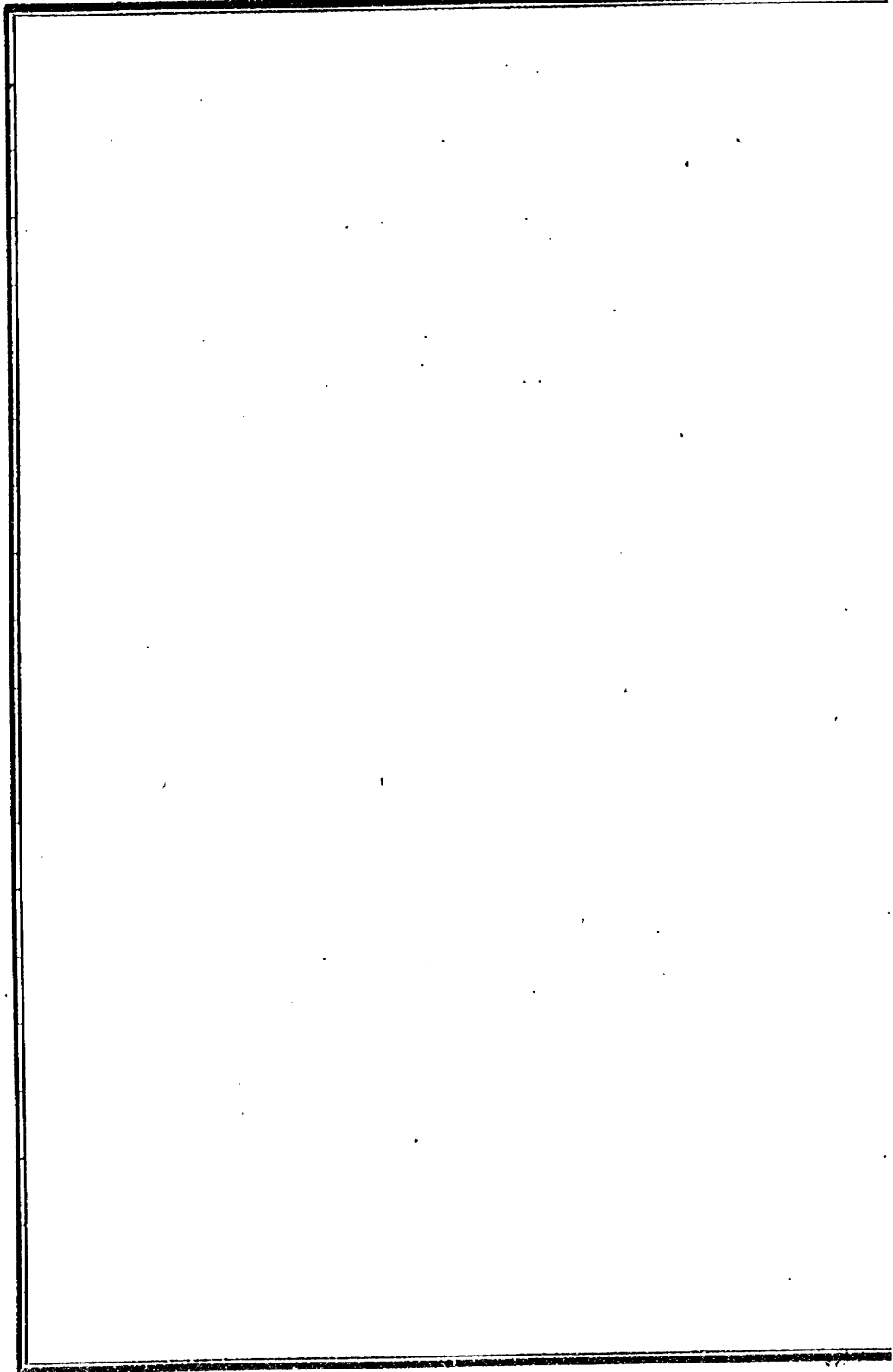
指 示

大關命第千二百九十九號、第千三百二十六號及第千三百三十九號
ニ基キ左ノ如ク指示ス

第一總軍司令官、第二總軍司令官、第五方面軍司令官及第十七
方面軍司令官ハ決戦作戰ニ於ケル對戦車戦闘ニ關シ別紙ニ準據
スルモノトス

昭和二十年七月十六日

0810



日本標準規格 B-4

0811

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

決戦作戦ニ於ケル對戦車戦闘要綱

一 決戦作戦ニ於ケル對戦車戦闘ノ要諦カ敵ノ骨幹戦力タル戦車ノ撃滅ニ存スルヲ重視シ形而上下ニ亘ル各般ノ作戦準備就中築城陣地ノ編成、砲兵及戦車ノ運用等ハ對戦車戦闘ヲ基調トシテ實施スルモノトス

二 戦車ニ對スル作戦準備ハ水際附近ヨリ内圍ニ亘ル組織的縱深戦備ヲ以テ敵戦車ヲ撃滅スルニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

之カ爲沿岸道險ノ破壞又ハ之カ準備ヲ特ニ重視スルモノトス

三 對戦車戦闘ハ一死必碎ノ特攻ニ依ル内迫攻撃ヲ主體トス

之カ爲全軍將兵ニ對シ兵種ヲ論セス兵科部ヲ問ハス内迫攻撃戦

法ノ徹底及整備ノ充實ヲ期スルモノトス

四 肉迫攻撃ハ對戰車決戰手段ニシテ肉迫攻撃ヲ以テ單ニ敵軍ヲ本
旨トスル自衛戰闘手段ト見做サントスルカ如キ思想ハ之ヲ一擲
スルモノトス

大陸指第二千五百二十七號

指 示

大融命第千二百三十六號ニ基キ左ノ如ク指示ス

大陸指第二千三百七十三號第二項ヲ削除ス

昭和二十年七月二十六日

陸
軍

0814

大勅指第二千五百二十八號

指 示

大勅命第千二百三十六號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 現下ノ情勢ニ於テハ泰國ノ武力處理ハ之ヲ行ハサルモノトス

之カ爲有ユル手段ヲ購シテ最惡事態ノ惹起防止ニ勉ムルモノトス

二 情勢眞ニ止ムヲ待ス武力ヲ行使セサルヘカラサル場合ニ即應ス

ル如ク作戰準備ノ周到ヲ期スルモノトス

三 武力發動ニ關シテハ別命ニ依ルヲ本則トス

昭和二十年七月二十六日

大帥指第二千五百二十九號

指 示

大帥命第千三百二十五號ニ基キ左ノ如ク指示ス

航空總軍司令官ハ特攻約百機（内中練約半數）ヲ支那ニ派遣シ

支那派遣軍總司令官ノ指揮下ニ入ラシムルモノトス

指揮轉移ノ時機ハ航空總軍司令官、支那派遣軍總司令官相互協議

スルモノトス

昭和二十年七月二十七日

陸 軍

0816

大醫指第二千五百三十號

指

示

大勳命第千二百九十九號ニ基キ左ノ如ク指示ス

航空總軍司令官ハ左ノ部隊ヲ海軍總司令長官ノ指揮下ニ入ラシ

ムルモノトス

第一挺進團ノ一部（約三百名）

指揮轉移ノ時機其ノ他細部ニ關シテハ海軍總司令長官ト協議ス

ルモノトス

昭和二十年七月二十七日

大陸指第二千五百三十一號

指 示

大陸命第九百十二號ニ基キ左ノ如ク指示ス

大檢指第七百六十七號第一項ハ自今之ヲ廢止ス

昭和二十年七月二十七日

陸
軍

0818

大體指第二千五百三十五號

指 示

大體命第千三百七十六號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 第一總軍司令官、第二總軍司令官及航空總軍司令官ハ敵ノ日本海正面ヨリスル策動ニ對シ速ニ同正面ノ戰備ヲ強化スルモノトス

但シ主戰面ハ依然太平洋及東支那海正面トス

二 航空總軍司令官ハ敵機動部隊就中艦砲射擊艦艇ノ制壓竝防空作戰實施ノ爲決號作戰準備ニ影響アルモ止ムヲ得サルモノトス

昭和二十年八月九日

大帥指第二千五百三十六號

指 示

大帥命第千三百七十四號ニ基キ左ノ如ク指示ス

支那方面ヨリ南滿方面ニ轉用ヲ準備スヘキ兵力軍需品左ノ如シ

一 軍司令部

約六箇師團、六箇旅團基幹ノ兵力

彈藥約六箇師團會戰分

其他一部資材

昭和二十年八月九日

陸 軍

0820

大體指第二千五百三十七號

指 示

大體命第千三百七十七號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一派遣部隊ノ兵力基準ハ左ニ依ルモノトス

一般部隊

1 飛行機可動全力

2 空中勤務者成ルヘク多數

3 地上整備員必要最小限

特攻隊

轉用可能全力

二轉進ノ爲飛行機ナキ空中勤務者及整備員等ノ空輸ハ航空總軍司

令官ノ擔任トシ第十方面軍司令官之ヲ援助スルモノトス

三 轉進ハ速ニ内地（又ハ朝鮮）ニ到着スルヲ主旨トシ準備完了セ

シ部隊ヨリ遂次實施スルモノトス

四 支那派遣軍總司令官ハ轉用部隊ノ行動ヲ援助スルモノトス

昭和二十年八月十日

大陸指第二千五百三十八號

指 示

大帥命第千二百九十九號、第千三百二十六號及第千三百三十九號
ニ基キ左ノ如ク指示ス

第一總軍司令官、第二總軍司令官、航空總軍司令官、第五方面
軍司令官及第十七方面軍司令官ハ別紙「對機雷戰ニ關スル陸海
軍中央協定」ニ基キ對機雷戰ヲ實施スルモノトス

昭和二十年八月十日

別紙

對機雷戰ニ關スル海軍中央協定

昭和二十年八月十日
大本營海軍部
大本營陸軍部

本協定ハ本土作戰ニ關スル海軍中央協同要領竝ニ日艦作戰ニ關
スル陸海軍中央協定ニ據ルノ外對機雷戰ノ實效ヲ擧クル爲關係
海軍部隊（機關）ノ遵守スヘキ事項ニ就中ノ之ヲ規定ス

第一 臨時陸軍掃海處分ニ關シ關係海軍指揮官ノ區處ヲ承クルモ
ノトス

第二 臨時陸軍機雷監視部隊ハ敵ノ機雷敷設監視ニ關シ關係海軍
指揮官ノ區處ヲ承クルモノトス

第三 港灣（海軍擔任港ヲ除ク）ニ配備シアル海軍地上防空隊及
照空隊ハ關係陸軍指揮官ノ區處ヲ承クルモノトス

第四 海軍部隊ハ陸軍部隊ノ使用スル掃海兵器ノ供與修理掃海基

地ノ使用等ニ關シ關係陸軍部隊ノ要求ニ應シ之ニ協力スル
モノトス

第五 海軍部隊ハ水路閉塞竝ニ啓海ノ狀況ヲ關係陸軍運輸機關

ニ速報スルモノトス

第六 陸軍部隊ハ海軍部隊ノ掃海能力ノ狀況ニ依リ掃海及機雷監視

視ノ實施困難ナル場合海軍部隊ノ要求ニ應シ之ニ協力スル
モノトス

第七 陸上ニ落下セル敵機雷ノ調査ハ左ニ據ル

一 技術的調査ハ海軍ノ主擔任トス

二 陸軍部隊ハ海軍機雷調査班ノ機雷調査ニ關シ關係海軍機關

ノ要求ニ應シ之ニ協力スルモノトス

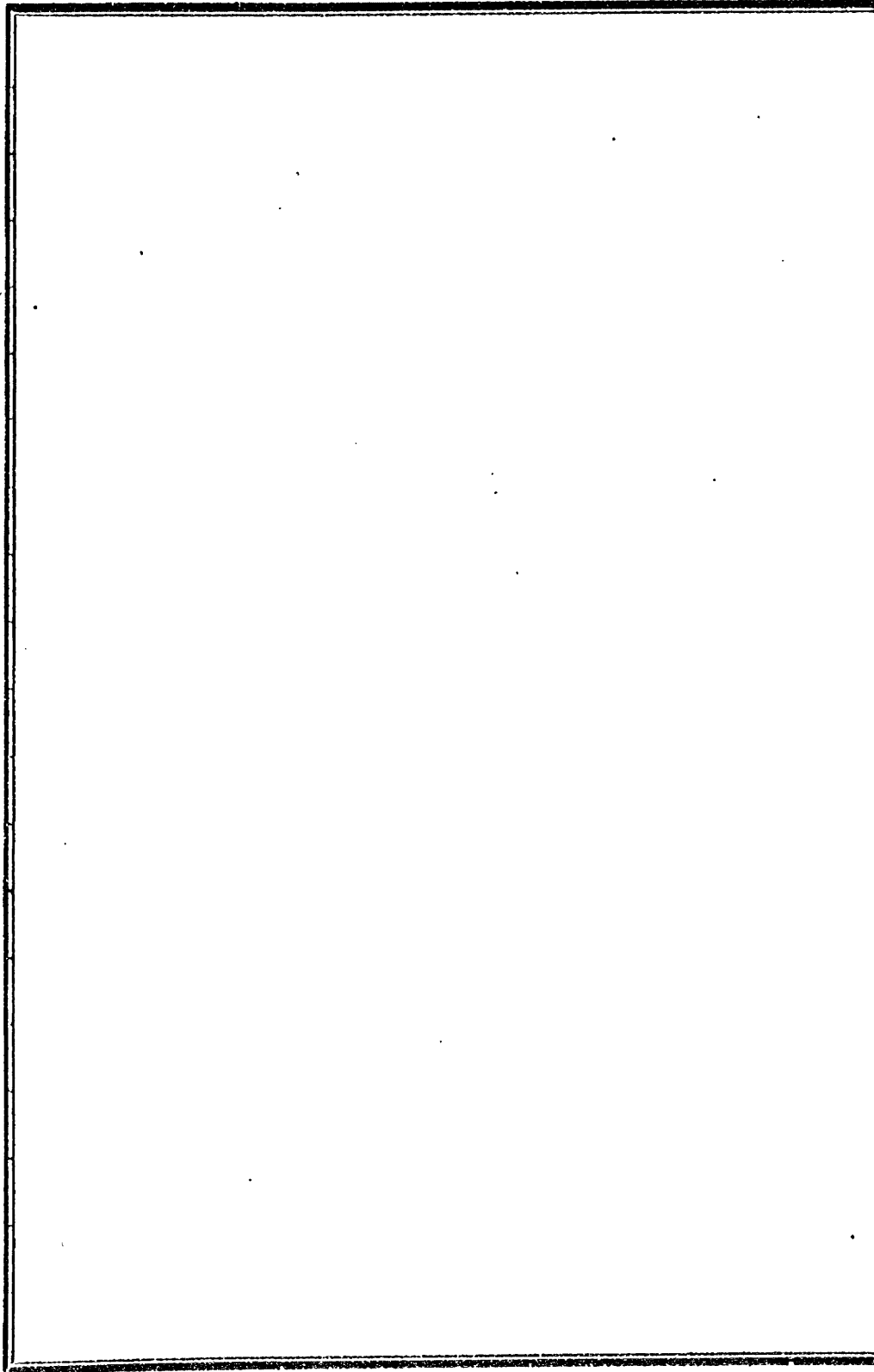
三海軍ハ敵機簡ノ性能及掃海法等ニ關シ得タル資料ヲ陸軍ニ速報スルモノトス

第八 臨時陸軍機雷監視部隊竝ニ防空監視機關ノ取得セル機雷情報ハ關係海軍指揮官ニ速報スルモノトス

第九 關係陸海軍指揮官ハ本協定ニ基キ必要ニ應シ細部協定ヲ實施スルモノトス

註 一本協定ハ昭和二十年八月十五日ヨリ實施ス

二大艦指第二千五百三十二號ニ基ク決號作戰準備計畫要綱
中各航路帯ニ配備スル臨時陸軍掃海部隊及陸軍機雷監視
所ハ本協定ヨリ除クモノトス



日本標準規格 B-4

0827

大圖指第二千五百三十九號

指 示

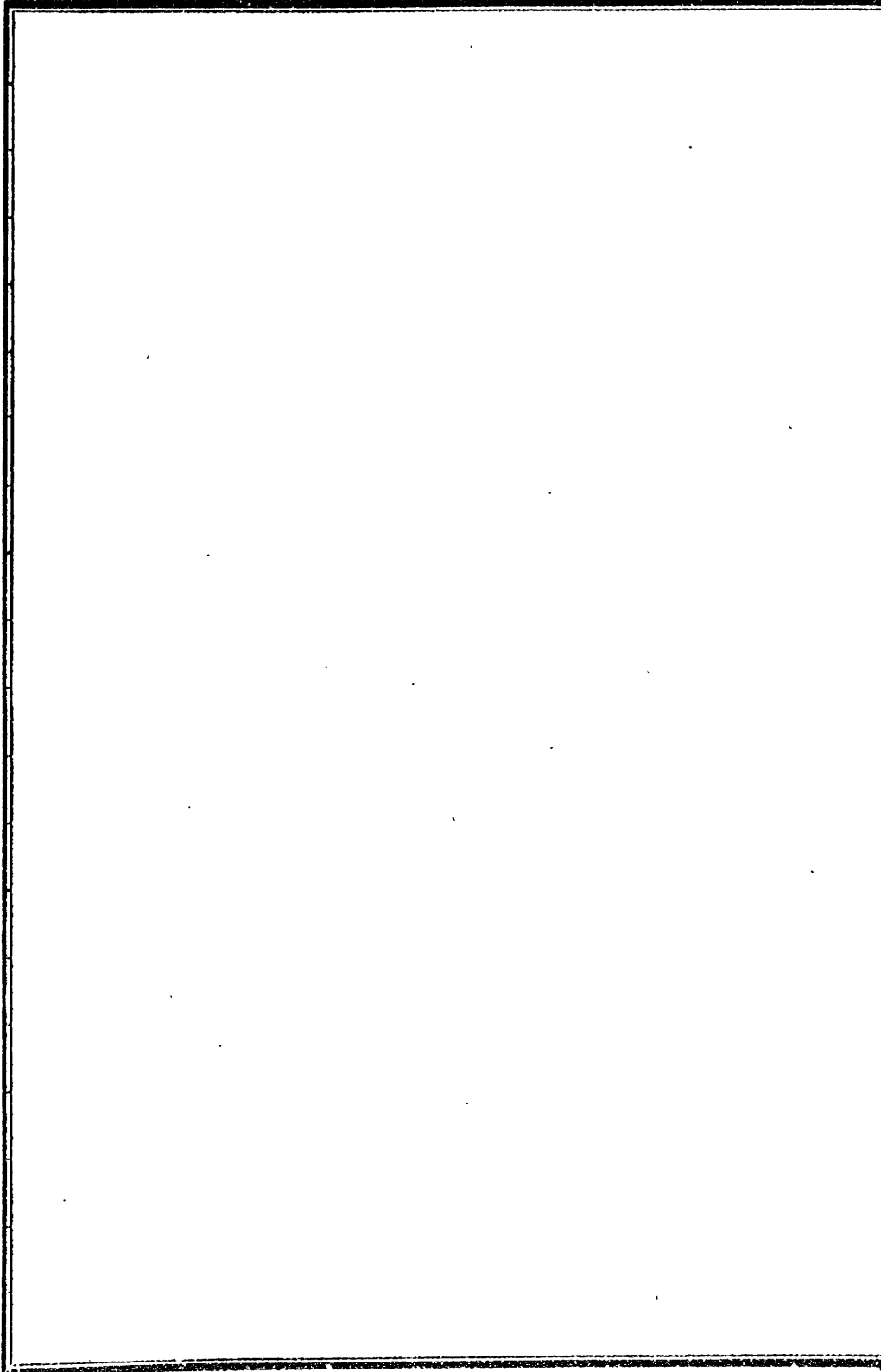
大圖命第千三百七十八號ニ基キ左ノ如ク指示ス

關東軍總司令官ハ作戰進歩ニ伴ヒ適時其司令部ヲ其作戰地域内
ニ於ケル爾他方面ニ轉移スルコトヲ得

昭和二十年八月十日

陸 軍

0828



日本標準規格 B-4

0829

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

大圖指第二千五百四十二號

指 示

大圖命第千三百八十號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 關東軍作戰ノ機微ニ即應シ先ツ一軍司令及及少クモ二師團基幹

ノ兵力及所要ノ軍需品ヲ速ニ滿鮮方面ニ轉用スルモノトシ其ノ

細部要領ニ關シテハ支那派遣軍、關東軍相互緊密ニ連絡スルモ

ノトス

二 大圖鐵道ハ作戰輸送完遂ニ徹底シ對日輸送ハ中止ス其一貫運用

ニ關シテハ特ニ關東軍、支那派遣軍間ノ連絡ヲ緊密ナラシムル

モノトス

三 滿鮮支鐵道輸送力ノ配置ハ概ネ現狀通トシ原則トシテ新ナル車

輸融通ハ之ヲ行ハサルモノトス

昭和二十年八月十四日

日本標準規格 B-4

0831

大總指第二千五百四十四號

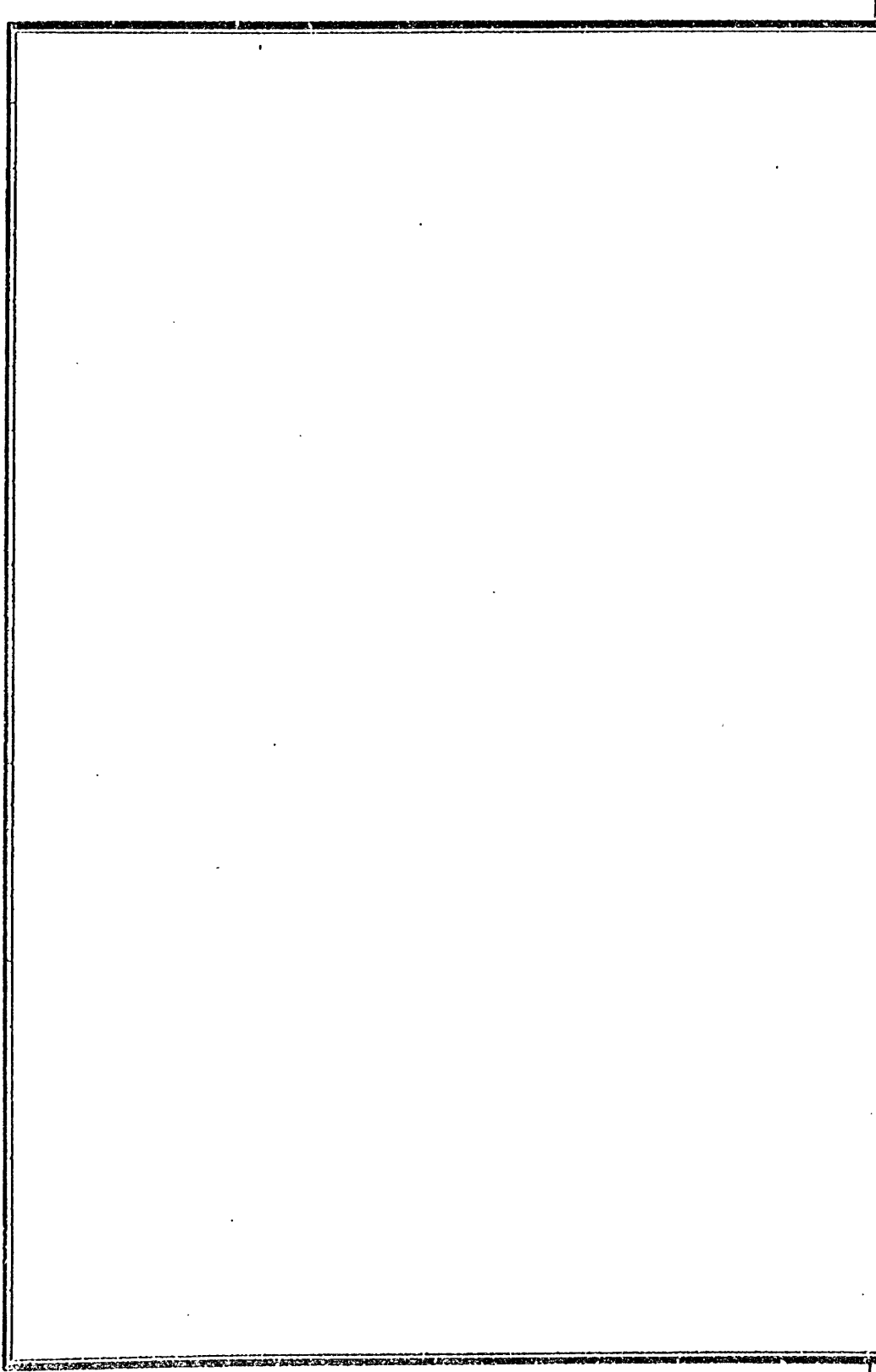
指 示

大總命第千三百八十二號ニ基キ左ノ如ク指示ス

關東軍總司令官ハ戰鬪行動ヲ停止スル爲「ソ」軍ニ對スル局地
停戰交渉及武器ノ引渡等ヲ實施スルコトヲ得

昭和二十年八月十六日

0832



日本標準規格 B-4

0833

大體指第二千五百四十五號

指 示

大體命第千三百八十二號ニ基キ左ノ如ク指示ス

支那派遣軍總司令官ハ戦闘行動ヲ停止スル爲局地停戰交渉ヲ實

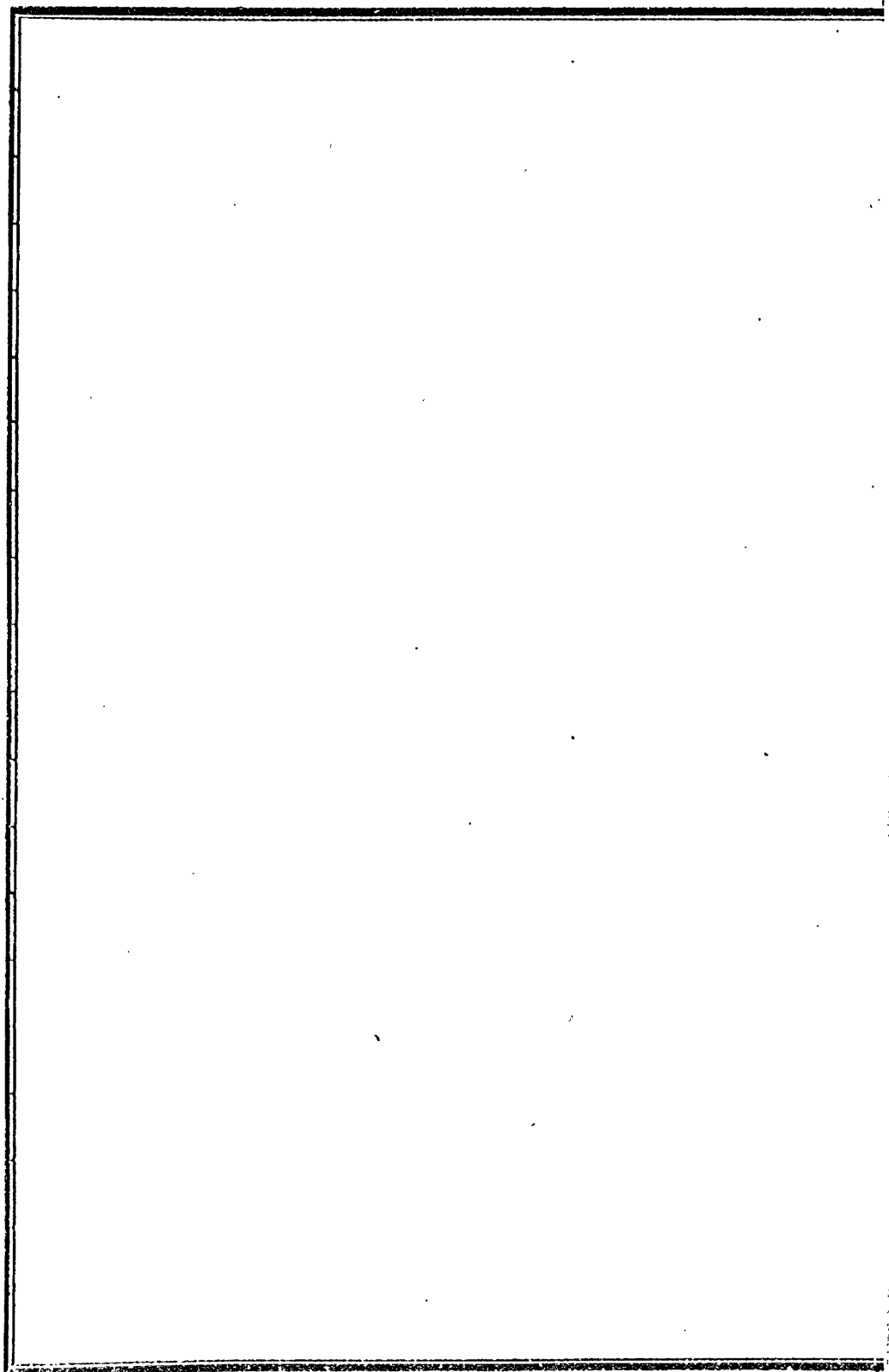
施スルコトヲ得

此ノ際蘇軍ニ對スル交渉ニ關シテハ關東軍總司令官ト密ニ連絡

スルモノトス

昭和二十年八月十八日

0834



日本標準規格 B-4

0835

大帥指第二千五百四十六號

指 示

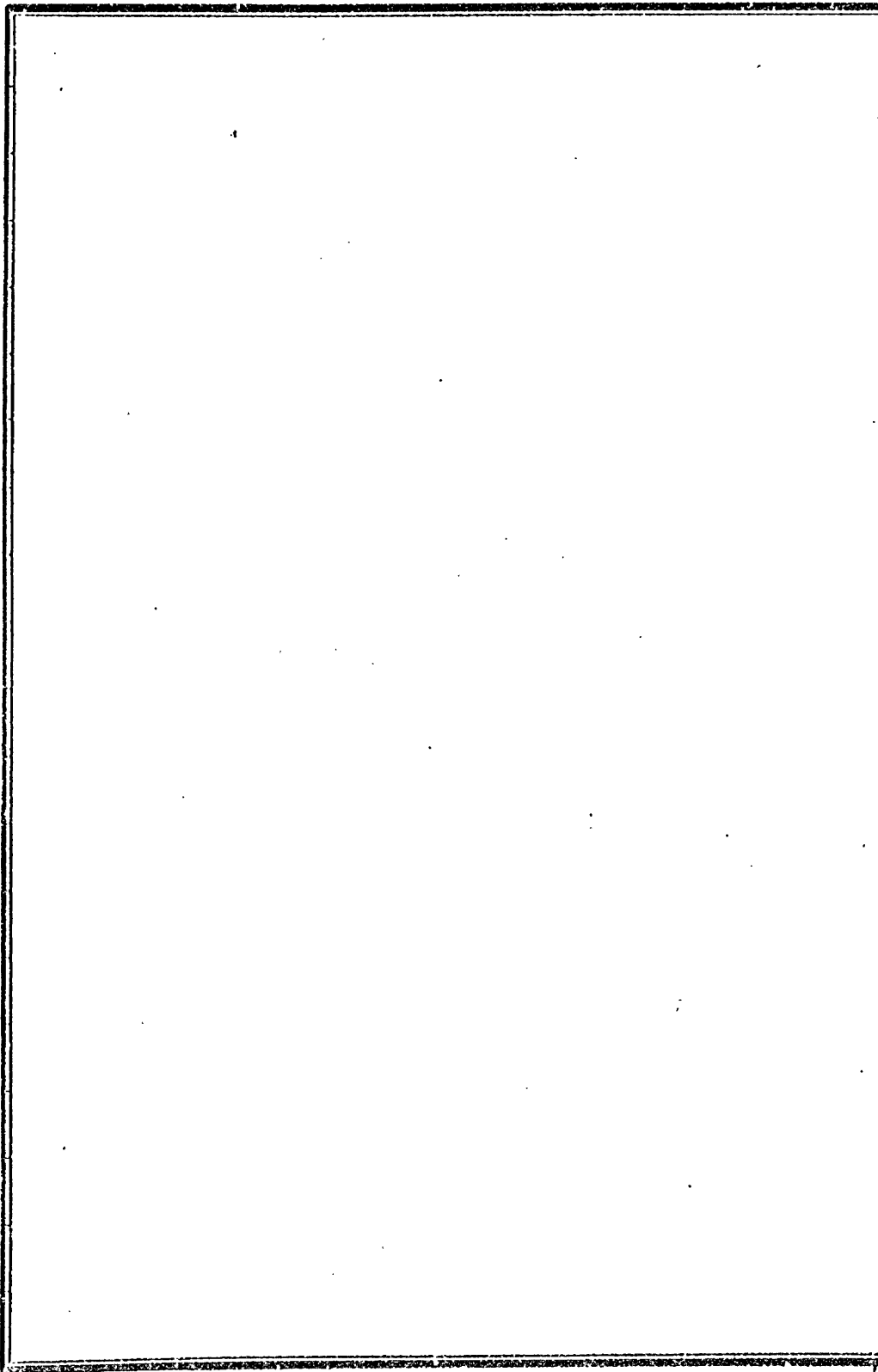
大帥命第千三百八十二號ニ基キ左ノ如ク指示ス

第五方面軍司令官ハ戰鬪行動ヲ停止スル爲局地停戰交渉及武器ノ引渡等ヲ實施スルコトヲ得

此ノ際蘇軍ニ對スル交渉ニ關シテハ關東軍總司令官ト密ニ連絡スルモノトス

昭和二十年八月十九日

0836



日本標準規格 B-4

0837

大帥指第二千五百四十七號

指 示

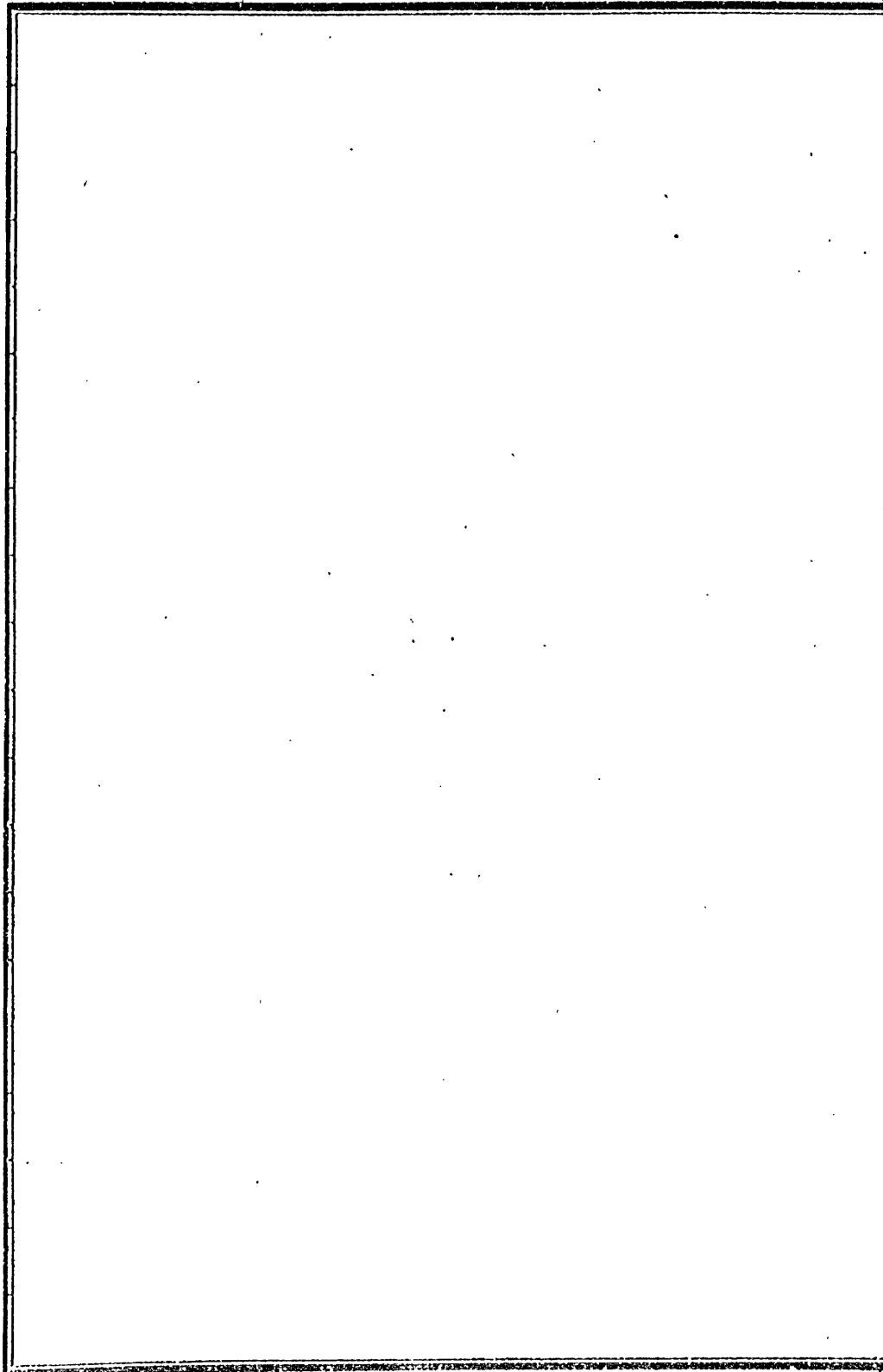
大帥命第千三百八十二號ニ基キ左ノ如ク指示ス

南方軍總司令官、第八方面軍司令官、第十方面軍司令官ハ戰闘
行動ヲ停止スル爲情況ニ依リ局地停戰交渉ヲ實施スルコトヲ得

昭和二十年八月二十一日

陸
軍

0838



日本標準規格 B-4

0839

大嶺指第三千五百四十九號

指 示

大嶺命第千三百八十七號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 轉進ノ爲ノ機動開始ハ八月二十三日十二時以降實施スルモノト

ス

但シ轉進準備ノ爲ノ部隊ノ集結等ハ同時以前ニ實施スルコトヲ

得

ニ 轉進セシムル部隊ハ成ルヘク爾後ノ復員（復歸）ニ便ナル地域

ニ 集結セシムルモノトス

三 現地ニ殘留セシムル兵力ハ概ネ左記ヲ基準トシ特ニ其指揮官ノ

人選ヲ嚴ニシ且全員武裝ヲ解クモノトス

但シ帶刀（劍）スルモノトス

左 記

軍司令部及之ニ準スル司令部

聯隊區司令部

停車場司令部

陸軍病院

鐵道軍需品監守ノ爲ノ兵力

所収ノ通信及輸送部隊

四 東部甲地域内離島ニ在ル部隊ニシテ所定時刻迄ニ轉進ヲ終リ得
サル部隊ハ現在地ニ於テ自主的ニ全員武装ヲ解キ且其ノ確實ナ
ル監守ノ處置ヲ講スルモノトス

但シ帶刀（劍）スルモノトモ

五 轉進スル部隊ノ火砲其他携行困難ナル兵器ハ爲シ得ル限り集結シテ現地ニ殘置シ離實ナル監守ノ處置ヲ講スルモノトス

六 轉進スル部隊ノ患者ハ成ルヘク速ニ最寄野軍病院ニ轉送スルモノトス

七 轉進部隊ハ轉進ニ方リテハ宿營、給養ニ必要ナル軍需品ハ勉メテ全量ヲ携行スルモノトシ殘置軍需品ハ特ニ示スモノノ外燒却又ハ毀損セサルモノトス

八 殘置軍需品ノ品目、員數、位置ハ之ヲ明瞭ナラシメ成ルヘク速ニ報告スルモノトス

九 東部乙地域及西部甲地域ニ殘置スル海岸砲、高射砲及其他ノ火

砲（固定及可動ノモノヲ含ム）ハ八月二十五日十二時迄ニ其ノ
口径ノ如何ヲ問ハス閉鎖機ヲ除去シ且砲身ヲ最低俯角ニ下ケ置
クモノトス

十第一總軍司令官、第二總軍司令官ハ特ニ轉進部隊ノ團結、掌握
ヲ嚴ニシ混亂竝不測ノ事態ノ生起ヲ絶無ナラシムルト共ニ住民
ノ動搖混亂ノ防止ニ努ムルモノトス

昭和二十年八月二十一日

大體指第二千五百五十號

指 示

大體命第千三百八十七號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一第一總軍司令官及第二總軍司令官ハ命令第二項ニ示ス撤退地域

(海軍作戰擔任地域ヲ除ク)内ニ殘置スル軍司令官(東京海兵

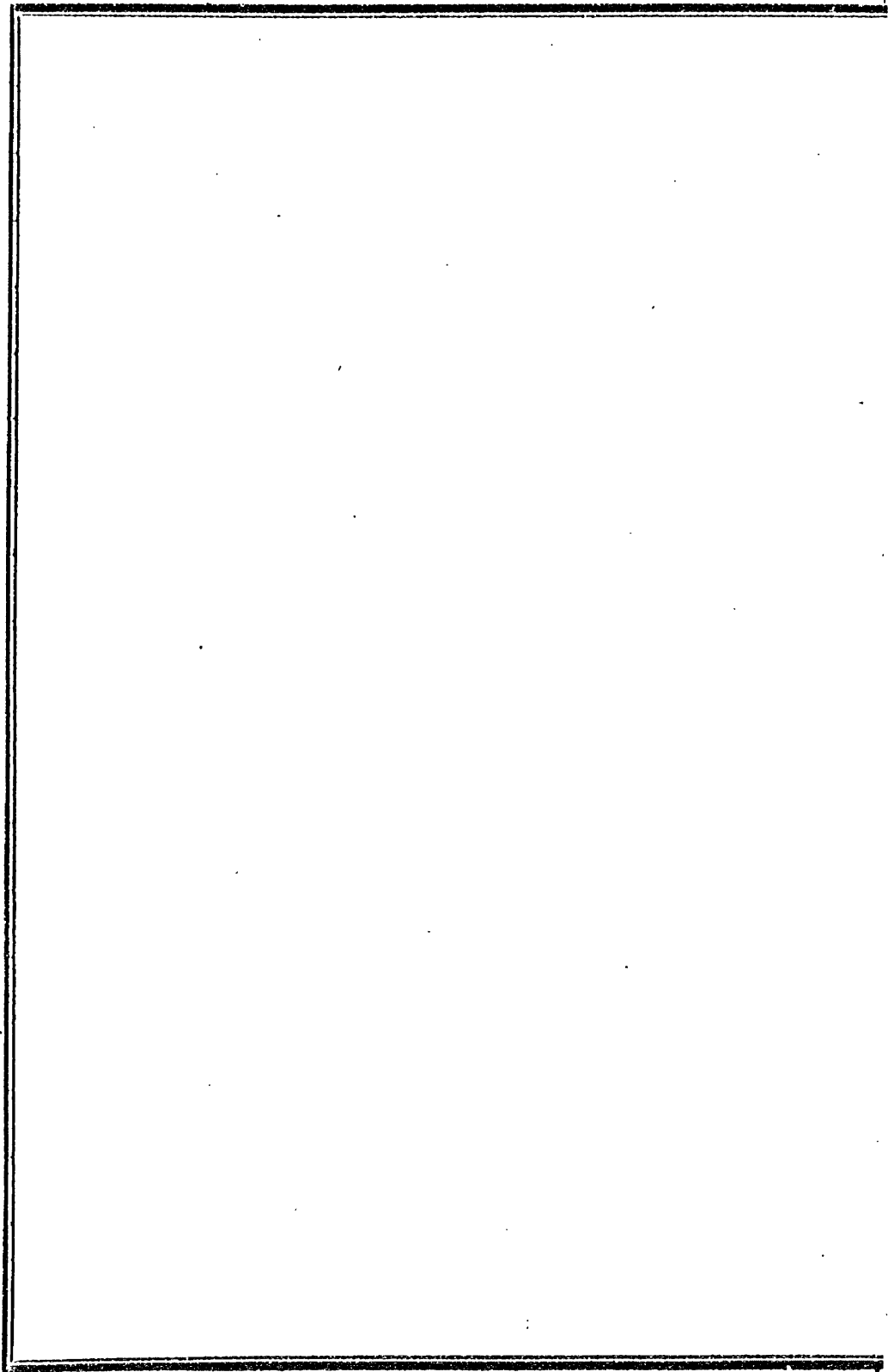
團長及第五十七軍司令官ヲ含ム)ヲシテ所在憲兵ヲ指揮シ同地

域ノ警備ニ遺憾ナカラシムルモノトス

ニ警備實施ノ主眼ハ警察ト協力シ聯合軍トノ紛争ヲ防止シ且治安

ヲ確保スルニ在リ

昭和二十年八月二十二日



日本標準規格 B-4

0845

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

大指指第二千五百五十一號

指 示

大指命第千三百八十七號ニ基キ左ノ如ク指示ス

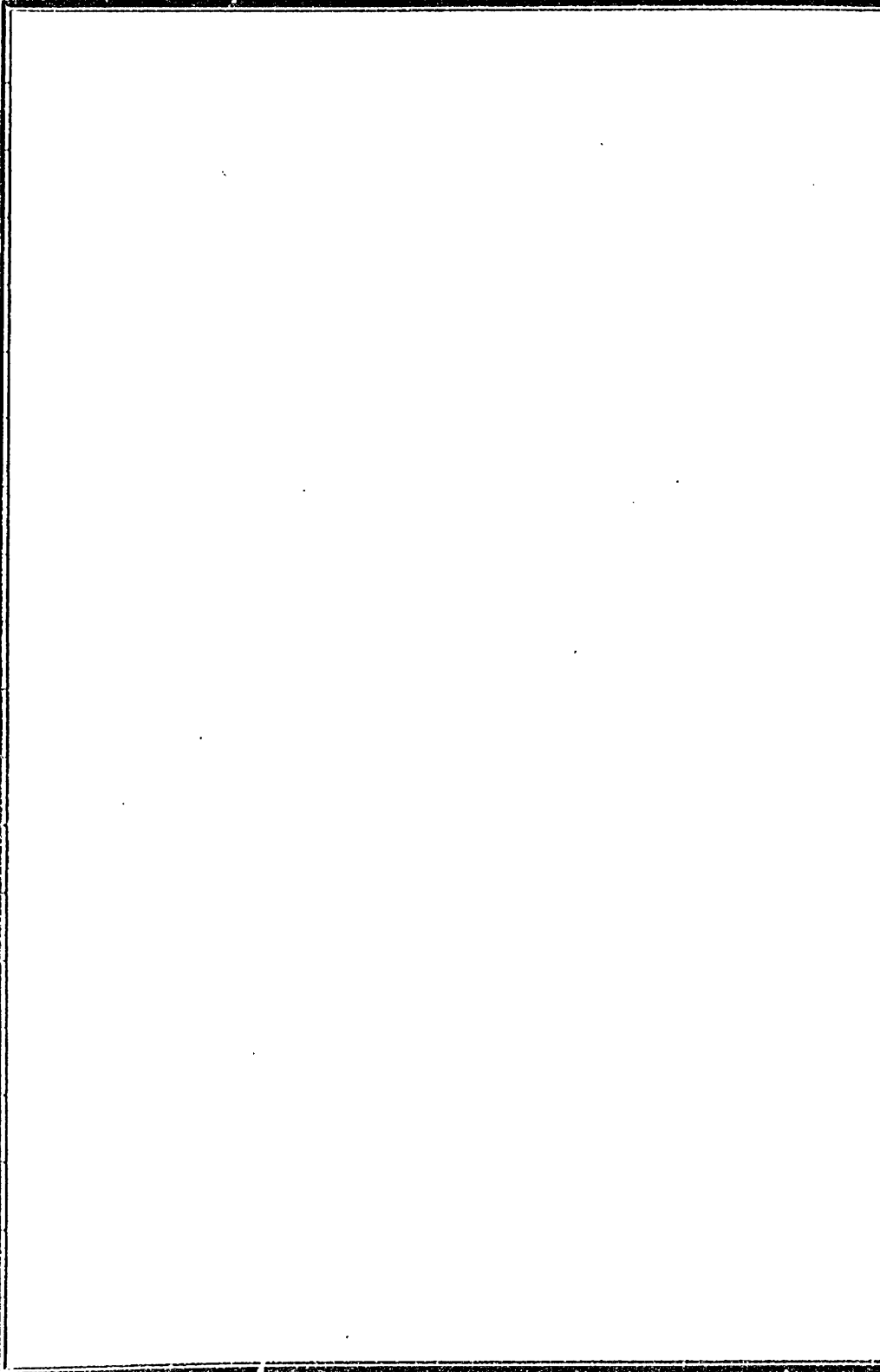
一 八月二十四日十八時以降總テノ飛行ヲ禁止ス

二 各總軍（軍）司令官ハ本指指示受領日時竝之カ徹底日時ヲ大本營

ニ報告スルモノトス

昭和二十年八月二十二日

0846



日本標準規格 B-4

0847

命令

一 憲兵司令官ハ左記地域ニ在ル憲兵ヲ増強シ夫々之ヲ第一、第二
總司令部官及横須賀鎮守府司令長官ノ指揮下ニ入ラシムヘシ

左記

ノ天津町ノ千葉市ノ多摩川口ノ多摩川ノ八高線多摩川鐵橋

ノ上野原ノ大月ノ御殿場ノ大仁ノ石室崎ノ式根島ノ新島

(各含ム)ヲ連ヌル線内ノ地域(自今東部甲地域ト呼稱ス)

2 串木野ノ加治木ノ末吉ノ油津(各含ム)ヲ連ヌル線以南ノ薩

摩及大隅半島(自今西部甲地域ト呼稱ス)

ニ 憲兵司令官ハ前項警備ノ實施ニ關シ密ニ第一、第二總司令部官

ニ協力スヘシ

昭和二十年八月三十一日

日本領規格 B--4

0849

大陸指第二千五百五十二號

指 示

大陸命第千三百八十八號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一大陸指第二千五百四十四號、第一千五百四十五號、第二千五百四十六號、第二千五百四十七號ニ基ク局地停戰交渉ハ概不左ニ準據シ實施スルモノトス

(一)支那(滿洲ヲ除ク)臺灣、北緯十六度以北ノ佛領印度支那ニ於テハ蔣介石ニ對シ實施スルモノトス

(二)滿洲、北緯三十八度以北ノ朝鮮緯太、千島諸島ニ於テハ極東「ソヴィエツト」軍最高指揮官ニ對シ實施スルモノトス

(三)「アングダマン」「ニコバル」「ビルマ」泰、北緯十六度以南

佛領印度支那、馬來「ボルネオ」蘭領印度「ニューギニア」

「ビスマルク」諸島「ソロモン」諸島ニ於テハ東南亞細亞司

令部最高指揮官及濠洲軍司令官ニ對シ實施スルモノトス

(四) 日本委任統治諸島、琉球、小笠原諸島ニ於テハ合衆國太平洋

艦隊最高指揮官ニ對シ實施スルモノトス

(五) 日本本土、之ニ附屬スル小島嶼、北緯三十八度以南ノ朝鮮及

「フィリッピン」ニ於テハ合衆國陸軍部隊最高指揮官ニ對シ

實施スルモノトス

二 南方軍總司令官、支那派遣軍總司令官、關東軍總司令官、第五

方面軍司令官、第八方面軍司令官、第十方面軍司令官、第十七

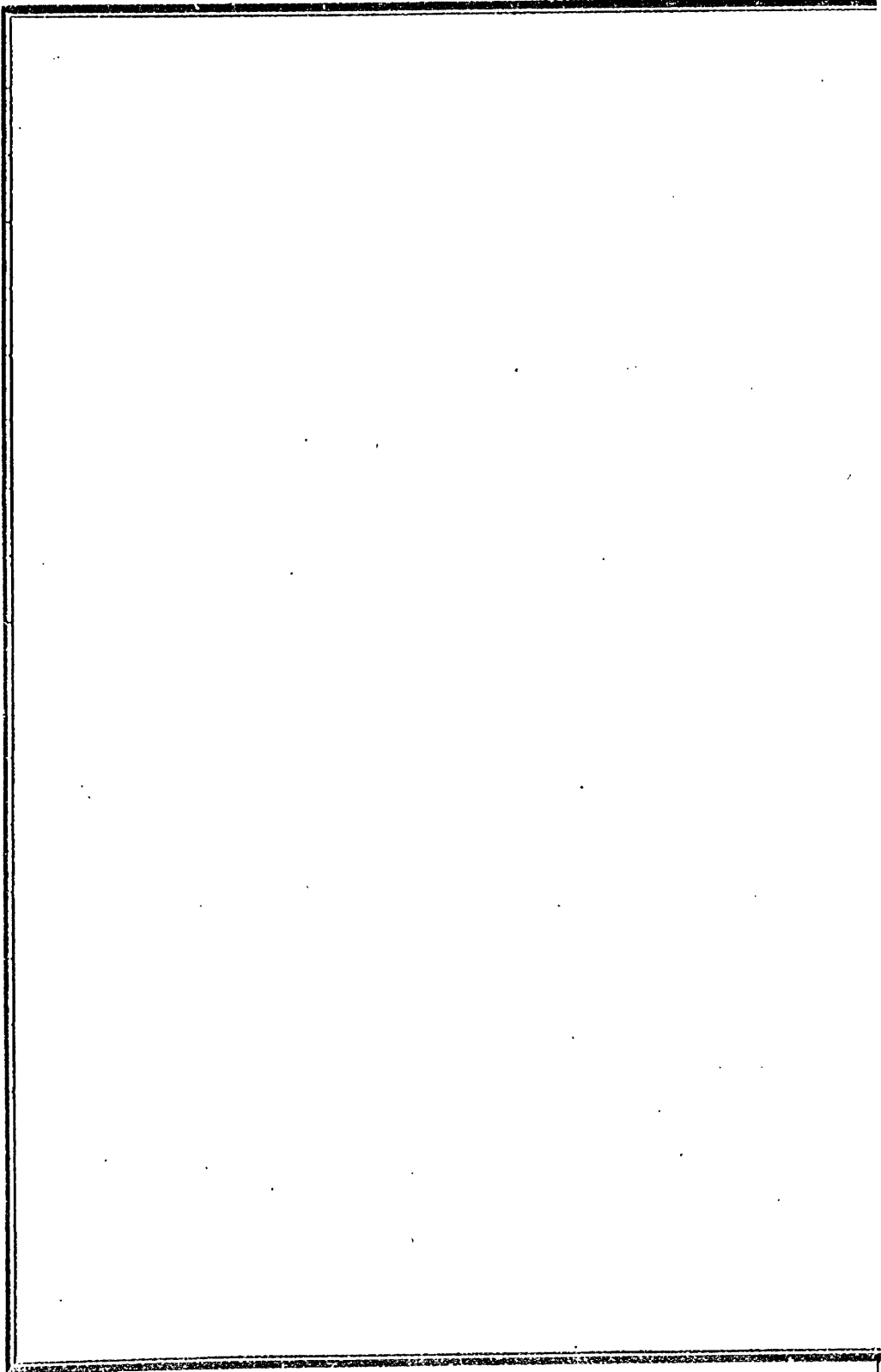
方面軍司令官、第三十一軍司令官、小笠原兵團長ハ當分ノ間大

本營トノ通信連絡ヲ確保スルニ努ムルモノトモ

昭和二十年八月二十二日

陸
軍

0852



日本標準規格 B-4

0853

大體指第二千五百五十四號

指 示

大體命第千三百八十七號ニ基キ左ノ如ク指示ス

聯合軍最高司令部トノ折衝ノ結果必要最小限ノ連絡飛行差支ナ
キ旨諒解ヲ得タルニ付左記ニ基キ連絡飛行ヲ實施スルモノトス
尙一般軍用機ノ飛行禁止ニ關シテハ大體指第二千五百五十一號
ヲ遵守スルモノトス

左 記

一 飛行區域

各總軍作戰地域内ヲ本則トス

巴ムヲ得サル場合ニ於テモ外地相互トシ萬巴ムヲ得ス内地(本

州、四國、九州ニ所要アル場合ハ豫メ大本營ノ認可ヲ受ケ
且内地トノ連接航路ハ京城、米子、東京トス

ニ飛行機及其標識

使用飛行機ハ成ルヘク輸送機トシ其ノ他ノ機種ヲ使用スルノ
已ムヲ得サル場合ニ於テモ武裝ハ確實ニ除去シ凡テ尾部ニ赤
吹流ヲ確實ニ附ス

三爲シ得レハ爲念更ニ現地軍ニ於テ相手軍ニ對シ所要ノ協定(通
告)ノ上之カ實施ノ爲至ラ期スルモノトス

昭和二十年八月二十三日

大陸參命第五十號

命

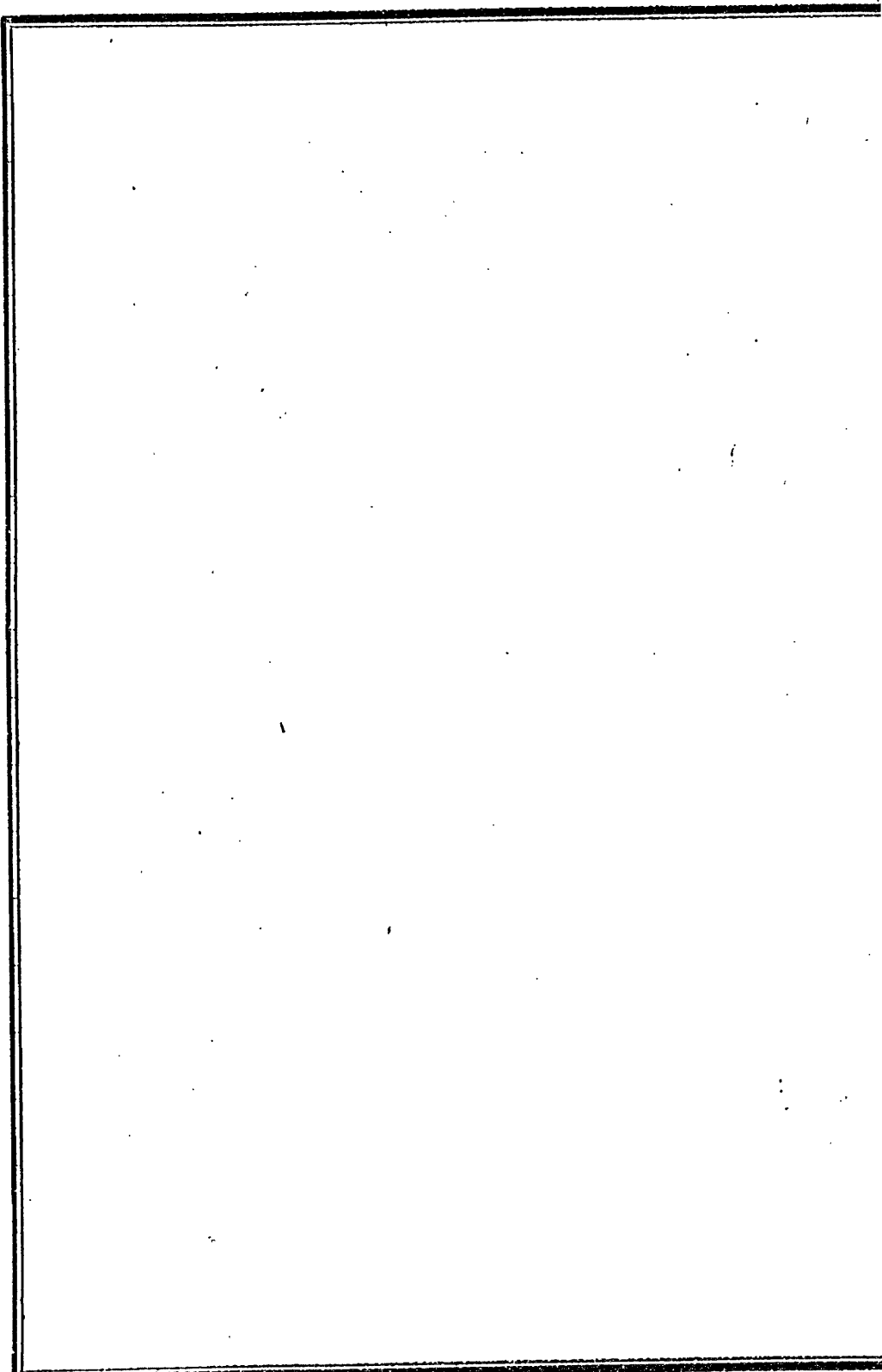
令

大廳參命第十三號ニ基ク中央特種情報部長ノ任務ハ八月二十五日
零時以降之ヲ解除ス

昭和二十年八月二十三日

陸
軍

0856



日本標準規格 B-4

0857

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

大塚指第二千五百五十六號

指 示

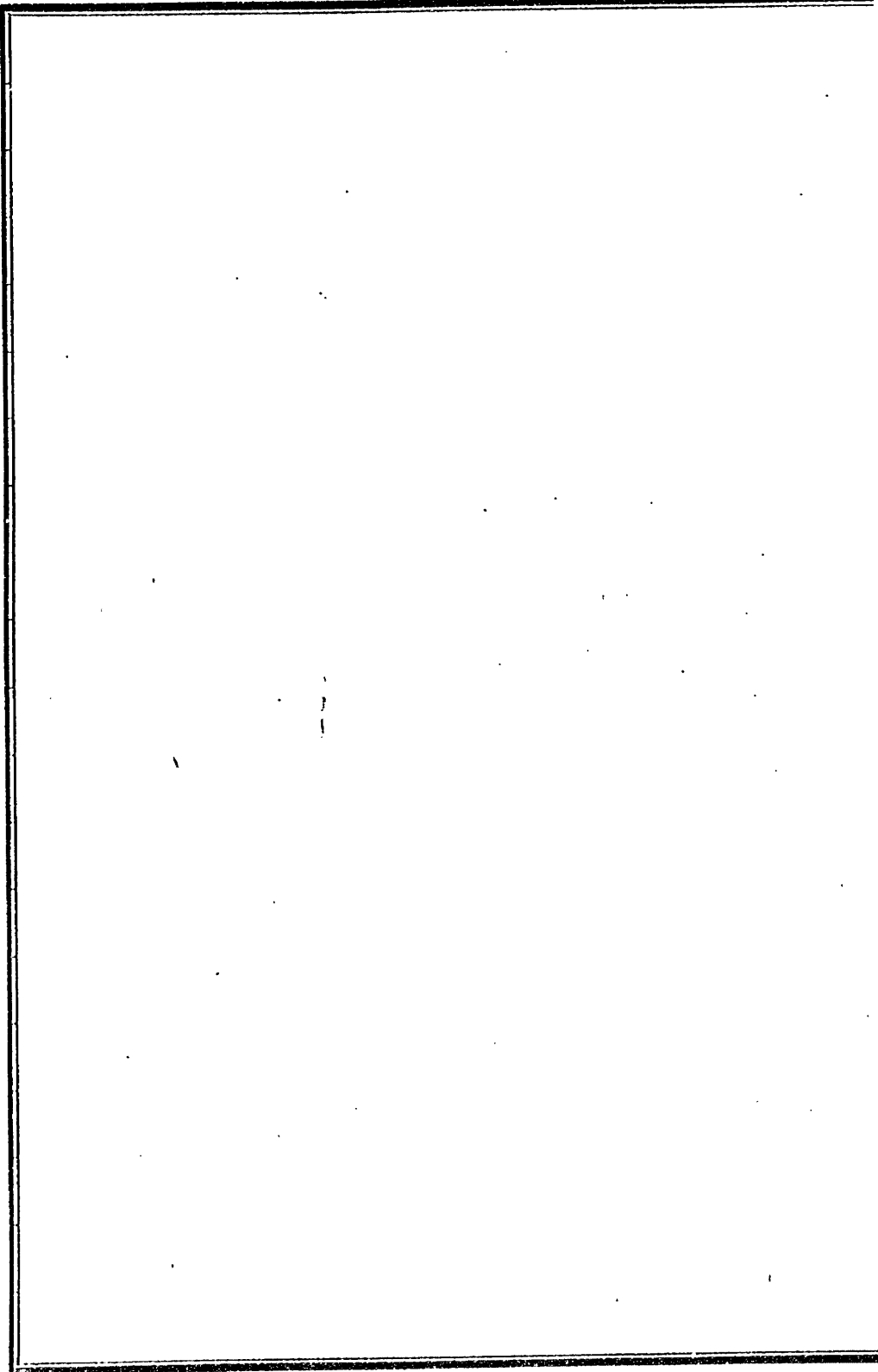
大塚命第千三百八十七號ニ基キ左ノ如ク指示ス

第二總軍司令官ハ第十六方面軍司令官ヲシテ西部甲地域ニ於ケル撤退竝撤退地域内ノ管備ニ關シ隸下指揮下以外ノ陸軍部隊ヲ區處セシムルモノトス

昭和二十年八月二十四日

陸 軍

0858



日本標準規格 B-4

0859